

株主さま向けオンラインイベント 開催概要

株主の皆さまとの対話を目的とした株主さま向けオンラインイベントを開催しました。



開催概要

日時：2022年11月17日（木）10時～11時

出席者：執行役員 研究開発部門 テクノケミカル研究所長、環境新事業担当 仲井 茂夫
花王エコラボミュージアム館長 細川 泰徳
法務・ガバナンス部門 法務部長 長谷川 亜希子

アジェンダ：開会

ケミカル事業における研究開発（約25分）

花王エコラボミュージアム バーチャル見学（約25分）

質疑応答（約20分）

閉会

主な質疑応答の要旨

1. グリーン舗装を世界展開する際の障害があれば教えて欲しい。

海外は、その国ごとに道路の規格というものが厳密に規定されている。現在、アメリカとアジア地域、特にタイ、台湾でこの技術展開を進めようとしており、舗装の規格をしっかりと満足させつつ進めている。

2. 高耐久アスファルトの水はけはどうなのか教えて欲しい。

従来技術と比べた水はけ性能は変わらない。

また、現在の技術でも排水性舗装というものがあり、高速道路では一部その舗装が採用されている。

高速道路を雨の日に運転した時に、急に運転音が静かになったという経験をしたことはあると思うが、あれは舗装の骨材の間に空隙を作って、そこから水を排出する技術になる。この技術は、どうしても舗装の強度が下がり、わだちが掘れやすくなる。

当社の技術は、舗装の強度を上げることができるため、舗装寿命向上と排水性の両立が可能となる技術であると考えている。

3. つめかえパックなどのプラスチックをリサイクルする際の課題は何か？

一番難しいところは、材料が単一ではないということになる。つめかえパックは一見単純なように見えるが、複数の材料の多層構造になっている。色々な材料が使われているものをリサイクルして、剥がすことが今はできないため、混ぜ合わせて使用することになる。そうすると、材料と材料の間の界面の強度等が弱くなるといった課題がある。将来的には、リサイクルしやすいような設計にしていけることも重要と考えている。

4. 舗装の中のポリエステルやペットボトル再生物質はマイクロプラスチックにはならないのか教えて欲しい。

当社が開発した舗装技術は、舗装に使われている骨材（砂利）との接着力を大きく上げている。マイクロプラスチックとして舗装から出てくる量は、研究所での検討結果として従来のアスファルト舗装から粉塵を含めた微粒子の発生量を大幅に減らすことができていると確認している。つまり、現状の技術と比べて大きく増えるということもなく、逆に低減できると現時点で考えている。

5. 界面活性剤とは逆に、撥水剤の研究開発の状況も教えて欲しい。

当社の技術は界面をいかに制御していくかということを主に開発している。従って、本日説明したアスファルト舗装の話もそれにあたるが、骨材との接着力を上げるためにアスファルト改質剤によって、わだちが掘れにくい舗装ができている。

界面を制御していくということで、当然ながら親水化の技術や撥水化の技術も研究開発を進めている。撥水剤は当社の技術が発揮できる領域だと考えている。

以上